

(1) 3月1日に行われた「四旬節を迎えての黙想会」QRコード

以下のQRコードから、李聖一神父の「四旬節を迎えての黙想会」の講話を視聴できます



① リーダーシップ論



② 識別



③ 不偏心



④ 反対のことをする



⑤ より大いなる望みを引き出す



⑥ ひとりひとりへの配慮



⑦ まとめ

(2) 山中神父より、十字架の道行など黙想のヒント

十字架の道行にしても、ロザリオにしても、「黙想する」と書いてあります。黙想というのは、イグナチオ的理解になるのですが、場面に入っていくことが鍵になります。場面の中に入っていくこと。ですから十字架の道行というのは（この聖堂にあるのは文字の十字架の道行ですが）各留の情景を描いているものが多く、例えばイエス様が倒れられたときであれば、倒れているイエス様の横に「いて」、一緒にそれを「味わう」。倒れているイエス様を見て、イエス様の叫び声を聞いて、周りの人々が罵倒する言葉を「聞く」のです。あるいはロザリオでイエス様のご誕生になられたところ、ご降誕の場面を見るのであれば、まぶねですやすやと眠っておられるイエス様の顔を「見て」、マリア様とヨセフ様と共に手をとって「触れて（抱いて）」、イエス様を「五感で感じる」。こういったことが（イグナチオ的）黙想です。その場において、場面の中に入っていくことで、イエス様に触れ、イエス様の生活に触れ、いのちに触れて、神秘に触れるというのが黙想です。十字架の道行をするときにも、あるいは個人でロザリオをするときにも、あるいはお家で聖書の箇所を読んで黙想するときにも、その場面に入っていくことができるならば、幸いです。なぜなら私たちは想像力を通してイエス様に触れていただくことができるからです。マリア様に、ヨセフ様にあるいはペトロに触れられる経験ができるからです。そして私もそこに彼らと一緒に息吹くことができるからです。これがひとつの黙想の仕方です。

右のQRコードから、視聴できます →



(3) 聖香油ミサのご案内

日時： 2026年4月1日（水） 14時

場所： 世界平和記念聖堂